

Triathlon 2006

トライアスロン基本用語

トライアスロン(Triathlon)

ラテン語の3を表す「トライ」と、競技を意味する「アスロン」の合成語。スイム(水泳)、バイク(自転車)、ラン(ランニング)の3種目を一人の競技者が連続して行うことが基本。1974年にアメリカのカリフォルニア州サンディエゴではじめて競技として行われた。種目をスキーやマウンテンバイクに置き換え、3種目で構成される競技(ウインタートライアスロンなど)もある。

トライアスリート(Triathlete)

トライアスロンに参加する、あるいは参加を目指す選手のこと。

デュアスロン(Duathlon)

トライアスロンの第1種目スイムをランに置き換え、ラン・バイク・ランの2種目で行う競技。「デュ」はラテン語の2を表す。広義ではトライアスロンに含まれる。

デュアスリート(Duathlete)

デュアスロンに参加する、あるいは参加を目指す選手のこと。

アクアスロン(Aquathlon)

スイムとランで行われる競技。世界選手権も開催される。

トライアスロンディスタンス(Triathlon Distance)

スイム1.5km、バイク40km、ラン10kmの合計51.5kmのトライアスロンの名称。2000年のシドニー・オリンピックもこの距離で争われた。現在、世界のトライアスロンの80%強はこの距離で行われている。通称、オリンピックディスタンスと表現される。

エリート(Elite)

トップ選手の呼称。一般選手と区別して競技をスタートすることも多い。

エイジグループ(Age Group)

年齢別(5歳ごと)に競技を行い、表彰するためのグループ分けを示す。エリートの表現と同等の評価が与えられる。

レジストレーション(Resistration)

選手登録のこと。バイク、バイクヘルメット、ウェットスーツなどの用具の検査も同時に行われる。

カーボパーティ(Carbo Party)

正式にはカーボローディングパーティ。トライアスロンのような有酸素運動に多く必要な炭水化物(カーボ)を蓄積するための食事会を意味するが、大会前夜のパーティを示すことが多い。

レースナンバー(Race Number)

大会ごとに、選手に付与される識別数字。ウェアに付けるこの数字を書いたもの（紙および布製）をナンバーカードとも呼ぶ。ゼッケンという呼称は、英語では使わない。

マーシャル(Marshal)

競技全体を司る審判。競技中に不正行為を監視し、注意、警告、ペナルティを与える。競技終了後にマーシャル会議を行い、不正行為のあった選手に注意、警告、ペナルティを与えることができる。

スタート(Start)

トライアスロン競技の始まりを意味する。バイクスタート、ランスタートのように、各種目の始まりを示す場合もある。

ウェーブスタート(Wave Start)

スタートの際に、カテゴリー、競技力、年齢などにより選手をグループ化し、時差を設けてスタートさせる方法。スタート直後の混雑への安全対策に有効。

エイドステーション(Aid Station)

競技コース途中に設営され、水分、果物、軽食などが供給される。大会が用意したスタッフから手渡されることが一般化している。

トランジション(Transition)

スイムからバイク、バイクからランへと競技種目を転換すること。ここでの速さがタイムに影響するため、トライアスロンの「第4種目」といわれることもある。

トランジションエリア(Transition Area)

トランジションを行う場所。コースの一部であり、選手以外の立入は厳しく制限される。バイクラック、トイレ、更衣テント、エイドステーションなどが設置される。

ドラフティング(Drafting)

おもにバイク競技で先行する選手の直後を走り、スリップストリームを利用し、また先行する選手を風よけとして、競技を有利に展開する戦術。エイジグループでは禁止されているが、ITUワールドカップなどのエリートレースでは公認される場合が多い。スイム、ランではエイジグループ、エリートとも禁止されない。

ストップアンドゴー・ルール (SG Rule)

ドラフティング禁止のバイク競技中、ドラフティングなどの不正行為があった場合マーシャルにより宣告されるペナルティ。宣告された選手は直ちに安全な路肩で停止し、降車後バイクを両手で持ち上げ、マーシャルの「ゴー」の合図を得て競技に復帰することができる。

フィニッシュ(Finish)

競技終了のこと。総合フィニッシュのほか、スイムフィニッシュ、バイクフィニッシュなど、種目ごとでも用いられる。ゴールという呼称は、英語では使わない。